

特徴的な入試制度とアドミッションポリシーの例

※赤字は編集部によるもの

### 東京農工大学

入試方式 SAIL入試 開始年度 2011年度入試 学部 工学部(物理システム工学科、情報工学科)  
募集人数 物理システム工学科:5人 情報工学科:5人

**選考方法**

【一次選考】志望理由書、特別活動レポート(物理システム工学科志望の場合は自然科学、情報工学科志望の場合は情報科学に関するもの)および調査書の内容を総合して、書類選考【二次選考】特別活動レポートの内容に関するプレゼンテーション・面接(レポートおよびプレゼンテーションの内容に関する質疑応答)・(情報工学科は上記に加えて)数学と情報に関する基礎能力の確認

**アドミッションポリシー**

【物理システム工学科】(教育目標)物理システム工学科は、物理学を基礎から体系的に学び、その基本原理を修得するとともに、論理的思考能力を培うことで、多様化・複雑化する工学的課題に対して物理学的視点・方法から問題を発見・分析して、その解決の方策を実践的に展開させる能力をもつ人材を養成します。(アドミッション・ポリシー)

- 物理学全般に関心があり、工学的課題に対して物理学的視点・方法から問題を発見・分析して、その解決の方策を実践的に展開したいという意欲を持つ者。
- 物理学等の理系科目ならびに数学・英語・国語等の基礎科目に十分な学力を有している者。

【情報工学科】(教育目標)情報工学科は、実験や演習を通して「作」ることを経験し、新しい情報システムを「創」り出し、さらに「造」りあげる誇りと喜びを見出しつつ、「創・造・作」の修得を目的とします。この理念に基づき、計算機の動作原理から最先端技術の実現方式に至るまで把握でき、研究者・技術者として第一線で活躍できる人材を養成します。(アドミッション・ポリシー)

- 情報工学や新しい情報システムを創り出すことに興味があり、最先端技術の研究者・技術者として第一線で活躍したいという意欲を持つ者。
- 物理学等の理系科目ならびに数学・英語・国語等の基礎科目に十分な学力を有している者。

### お茶の水女子大学

入試方式 新フンボルト入試 開始年度 2017年度入試 学部 全学部 募集人数 20人

**選考方法**

【一次選考】・プレゼンタル受講、レポート作成・提出・上記レポートと調査書、志望理由書、活動報告書等を総合的に評価【二次選考】図書館入試(文系)、実験室入試(理系)

**アドミッションポリシー**

本学での勉学に強い意欲と専門性を磨いていくために必要となる十分な基礎的学力をもっていること。そしてそれに加えて、文理を問わずさまざまな事象に強い知的好奇心を持ち、そこで課題を自ら発見し、それを粘り強く探究していく力、独創的な解を導けるようなポテンシャルを備えている人を受け入れたいと思います。具体的には、以下の項目のいずれかひとつ以上当てはまる方を求めます。

- 知識や意見を人に伝え、実践するためのコミュニケーション能力や応用力を備えている。
- 真理の探究と価値の創造に対する憧憬と幅広い興味・関心をもっている。
- 自分の将来と社会の未来へのビジョンを明確にもっている。
- グローバルな視野をもって思考し、国際的な場での活動を希望している。

### 創価大学

入試方式 PASCAL(パスカル)入試 開始年度 2018年度入試 学部 経済、経営、法、文、教育、看護の6学部7学科 募集人数 100人(全入学定員の約6%)

**選考方法**

【一次選考】調査書、自己推薦書をもとに書類選考【二次選考】・LTD(Learning Through Discussion)方式のグループワーク、LTDに関連したテーマの小論文、面接

**アドミッションポリシー**

創価大学はディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに則って「創造的人間」の育成をめざしています。そこで創価大学は入学を希望する者に対して、本学の教育理念を理解し、高等学校までの教育で育成が期待される「学力の三要素」(知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性)にわたる基礎的な学習能力を備えていることを求めます。それらの能力を多面的に評価することを基本方針として入学試験を実施します。具体的には、

- 創価大学の教育理念を理解し、自身の目的観に照らして本学での学習を希望すること。PASCAL入試、公募推薦入試ではそのことを出願資格とし、「面接試験」においてもそれを評価します。
- 高等学校までの教育において到達目標とされることでの基礎学力を習得していること。PASCAL入試、公募推薦入試、大学入試センター試験利用入試、全学統一入試、一般入試、外国人入試では、そうした基礎学力、即ち、知識・技能、思考力、判断力等を評価します。
- 基礎的な英語能力を有すること。創価大学の入試において英語能力を重視します。特に大学入試センター試験利用入試、一般入試では英語の得点配分を他科目より高く設定します。また、公募推薦入試、全学統一入試、一般入試では、実用英語能力の一定レベル以上の資格・スコア等を優遇する措置を取ります。
- 諸問題の解決のために主体性を持って多様な人々と協働して取り組んでいく資質と意欲を有すること。PASCAL入試、公募推薦入試においては「書類審査」と「面接試験」を実施し、高等学校等までの取り組みにおける主体性、協働性、学習意欲を評価します。またPASCAL入試では「グループ・ディスカッション」、「小論文」により、協働性、表現力等を評価します。

### 金沢工業大学

入試方式 推薦入試(公募制) 開始年度 2018年度入試 学部 全学部 募集人数 参考…2018年度の推薦入試の募集人員は296人(公募、指定校の合算)

**選考方法**

・数学と英語の基礎学力評価テスト(大学独自のペーパーテスト)  
・面接  
・数学、理科、外国語、国語、全体の評定平均の数値化  
・調査書、志望理由書等

**アドミッションポリシー**

①求める学生像

- 本学で学ぶ目的や意義が明確な者
- 進路目的が明確で、新しい価値の創造に知的好奇心を持つ者
- 理工学の知識を役立て、幅広く社会で活躍する技術者を目指す者
- 科学技術とその応用分野に関心をもち、ものづくりに積極的にチャレンジする者
- 本学の教育システムを積極的に活用できる者
- 本学の教育システムの特徴や仕組みを理解し、効果的に活用することで自らの能力を高める意欲のある者
- 他者と積極的に関わり、チームで協力して学修することに興味のある者
- 科学技術を学び応用するために求められる基礎学力を身につけている者
- 理数系科目の学習を好み、本学の修学のために必要な基礎学力を身につけている者
- 社会に関心をもち、多様な情報から自らの意見をまとめて表現するために必要な英語や国語、地理歴史、公民、情報等の基礎学力を身につけている者

# 1 APの実質化・明確化

視点

質保証の入口になるAP ↓ 入試になっているか?

## 入試で測る能力と方法、関係性を示しているか

2017年4月から3ポリシーの策定・公表が義務化された。この準備期間中に、関係者からよく聞かれたのは、「よいAPの事例はないか?」という声だった。

そもそも「よいAP」とはどのようなものだろうか? 今回の義務化にあたっては、文科省からガイドラインが示されている。それによると、APでは「学力の3要素を念頭に置き、具体的にどのような能力を、どのレベルで学生に求めるのか」「多様な学生を具体的にどのように選抜するのか」「多様な評価方法をどのように組み合わせ、どのようなバランスで評価するのか」を明示するように求めている。それぞれの入試で測る能力、測る方法、それらの関係性を明らかにしたうえで、「質保証の入口として、入試につながるAPでなければいけない」ということだろう。

## 選抜方式と整合性があるAPをわかりやすい形で

先んじて入試改革に着手した大学の入試方式とAPの関係はどうかを見てみよう(左ページ表参照)。

東京農工大学工学部では、受験生に高校時代に取り組んだ自然科学、情報科学に関する活動レポートを提出させ、それに関するプレゼンテーションと面接を課すAO入試として、SAIL入試を実施している。これを導入する2学科は、「課題解決への意欲」「研究者・技術者として活躍したいという意欲」をAPで求めており、それらを測ることだろう。

お茶の水女子大学が実施している新フンボルト入試は、大学の授業、学び方を体験させ、受験生の適性を見るところだ。APで示された「ポテンシャル」、求める人物像に示された「知識や意見を人に伝え、実践するためのコミュニケーション能力や応用力」

## を測る選抜方式だ。

創価大学が実施するPASCAL(パスカル)入試は、LTD方式のグループワークを課す。APで示した「諸問題の解決のために主体性を持って多様な人々と協働して取り組んでいく資質と意欲」を測るものだ。

また、金沢工業大学は求める学生像にある「科学技術を学び応用するために求められる基礎学力を身につけている者」を選抜するため、2018年度入試から、推薦入試(公募制)に、新たに大学独自の基礎学力評価テストを課すことにした。

今や進路指導の一環として、生徒にAPを読み解かせる時間を設けている高校もある。受験生にとってAPは「入学後の将来」をイメージし、入学するためにはどんな力が必要かを把握する手がかりとなるものだ。今後は「受験生にとってわかりやすいものか」という観点で、表現等を見直す必要があるだろう。

### APの見直しチェックリスト

- 学力の3要素を念頭に置き、具体的にどのような能力を、どのレベルで学生に求めるのかが明示されているか
- 多様な学生を具体的にどのように選抜するのかが示されているか
- 多様な評価方法をどのように組み合わせ、どのようなバランスで評価するのかが示されているか
- APで示した求める人物像を選抜できる入試が用意されているか
- 受験生に伝わりやすい表現になっているか

\*1 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)の策定及び運用に関するガイドライン(平成28年3月31日 大学教育部会)  
\*2 学習力(Study)、分析力(Analysis)、企画設計力(Innovative Design)、論理的発信力(Logical Presentation)を養成するSAILプログラムに対応した入試。  
\*3 Learning Through Discussion(話し合い学習法)。アクティブ・ラーニングの手法の一つ。

質保証の入口としての入試改革を進めるにあたって、アドミッションポリシー(AP)と入試との整合性は重要だ。先行する大学の例を見ながら考察する。